

歯削る機器 7割使い回し

感染研調査 滅菌せず 院内感染懸念

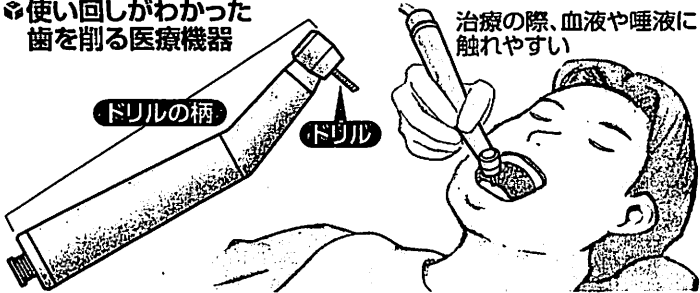
歯を削る医療機器を滅菌処置せずに患者間で使い回している歯科医療機関が約7割に上る可能性のあることが、国立感染症研究所などの研究チームの調査でわかった。機器を介してウイルスや細菌に感染する恐れがあり、研究チームは、患者ごとに清潔な機器と交換するよう呼びかけている。

調査対象としたのは、歯を削るドリルを取り付けた柄の部分。歯には直接触れないが、治療の際には口の中に入るため、唾液や血液が付着しやすい。使用後は、高温で滅菌処置をした清潔な機器と交換することが、日本歯科医学会の診療指針で定められている。

調査は、特定の県の歯科医療機関3152施設に対して実施した。2014年1月までに891施設(28%)から回答を得た。

滅菌した機器に交換しているか聞いたところ、「患者ごとに必ず交換」との回答は34%だった。一方、「交

治療の際、血液や唾液に触れやすい



使い回しがわかった歯を削る医療機器

換していない」は17%、「時々交換」は14%、「患者が何らかの感染症にかかっている時だけ交換」は35%で、計66%で機器を適切に交換していなかった。

同じ調査は、07～13年に計4回、別の県でも行っており、使い回しの割合は平均で71%だった。

研究チームの泉福英信・国立感染症研究所室長によ

ると、多くの歯科では人手や費用がかかり、アルコールで拭くなどの簡単な消毒や洗浄をただで繰り返して使っているとみられる。歯科関係者の間では、ドリル部分も、同様に滅菌せずに使い回しされているという指摘もある。

厚生労働省によると、歯科での院内感染は原因の特定が難しく、国内で明らかになった例はないという。